



## 平成29年度 草加市地域福祉講座

### ～福祉SOS（社会資源・お悩み・相談）ゲーム～ 見学参加レポート

平成30年1月25日（木）14時から草加市中央公民館で開催された福祉講座「福祉SOSゲームで市内にある社会資源を学ぼう」に参加しました。講座の主催は草加市、共催が草加市社会福祉協議会と日本赤十字社草加市地区、後援が文教大学です。講座の内容は、草加市の社会資源を知ること、その社会資源を上手に活用する為のノウハウをゲームしながら学ぼうというものでした。

「福祉SOSゲーム」は、草加市と文教大学人間科学部が協力して作成したオリジナルのゲームです。最初に、社会資源とは何かというと、その地域の機関・施設・サービス・人を総称したものです。例えば、市役所の部課や市の施設など・県や国の出先機関や施設・病院や学校・民生委員の方々などが該当します。そして社会資源はその地域に点在しているのですが、平成29年版の「SOSゲーム」は、実際の草加市を模擬した地図に現在実際に存在する社会資源名で表記されているというすぐれものです。草加市の社会資源の多さに感心すると共に、リアルで素晴らしい地図に、ゲームにも気合いが入ります。

ゲームの進め方は、5～7人のグループになり、配られた複数の「相談カード」をグループ内で討議して、どの社会資源に解決を求めるべきかを決定します。相談1件あたり数分で、みんなの智慧を出し合い、話し合いをまとめて、地図上の社会資源に「相談カード」を配置していくのです。



<元になる「草加市の社会資源」地図>



<地図上に「相談カード」を配置した様子>





「相談カード」には、「相談者の氏名、年齢、性別、職業、家族構成、住まい」などを相談者の状況と「相談内容」が記載されています。カードに書かれた情報をグループのメンバーが各々で理解すると、面白いことに相談者の状況への理解が微妙に違ってきます。それよりも全く違った理解をするメンバーがいることも多々あります。相談者の相談内容が、相談者が本当に求めている解決方法とは違うことさえもあるのです。

メンバーは、相談者の現状をどう理解したのかを説明しながら解決方法を提案し合います。そして、合意できた範囲で、相談者が解決を求めに行くべき「社会資源」を決定します。

例えば、大学生（20歳）女性でアルバイトを少々、アパートでひとり暮らしの環境で、相談は「生活に困り消費者金融で借金したが返せない」といった内容。あなたは、どういった社会資源に解決を求めるべきだと思いますか。

ある人は、悪質なサラ金かもしれないから「警察」へ相談に行くべき。

また、ある人は「消費者相談センター」へ行くのが妥当でしょ。

大学に詳しい人は、「大学の学生課」の方が良いでしょ。

そして、獨協大学に詳しい人は、実は学内に「リーガルサービスセンター」があるんです。

一同、ほお～それはグッドアイデア。

という具合にゲームが進むのです。

相談例は、多義に渡り「介護問題」「発達障害」などに関連するものもありました。実際に「SOSゲーム」を体験するのが1番なのですが、ゲームの臨場感を少しでもお伝えできれば幸いです。

また、今後もバージョンアップすることですので、次の機会に巡り会う「草加SOSゲーム」がどの様に進化しているのかも楽しみです。

なお、吉川市版「SOSゲーム」を作ってみてはという件に関しては、現時点では社会資源となるものが、草加市に比べるとかなり見劣りしてしまうのが現実です。強いて言えば、「吉川SOSゲーム」を作ってみることで、どの様な社会資源を早急に用意すべきかを喚起できるようにすることが大切かもしれませんね。

最後に改めて、草加市の皆様並びに文教大学の皆様に、素晴らしい体験をさせて頂いたことにお礼申し上げます。ありがとうございました。

以上

